

# 一般質問

# 町政を問うA

今回3人が質問し、  
その要約を掲載しました。

## 三村孝信議員…………… 9P

- 施政方針について
- (1) 町の将来像について
- (2) デマンド交通と路線バス実証実験について
- (3) 農産物ブランド化について
- (4) 直売所の充実について
- (5) 学区再々編について

## 三村由利子議員…………… 10P

- 納税の方法について
- バス通学の助成について

## 桐原健一議員…………… 11P

- 女性特有のがん検診事業について
- 住民基本台帳カードについて
- 高齢者への肺炎球菌ワクチンの公費助成について



# 施政方針について

(1) 町の将来像について

Q 「環境型ライフスタイルへの転換を図り、環境共生型社会を目指す」とは、具体的にどういうことか。

A 廃棄物を資源とし、ごみゼロの社会を目指す。豊かな自然と伝統を大切にしたい住みよい町を目指す。

(2) デマンド交通と路線バス実証実験について

Q デマンド交通のさらなる充実策は。路線バスの実証実験は、どのような状況か。

A 町内なら300円で目



三村 孝信 議員



的地へ行けるため、好評である。今後も利用者の声に耳を傾け不便な点があれば改善していきたい。路線バスの実証実験は水戸駅と御前山車庫間で最大39%の値下げをしている。利用者には、大変好評で朝の便を増やしたとの報告を受けている。

Q これが来年度からの値下げにつながり、利用者の経済的負担の軽減になるよう働きかけてもらいたい。

A そのように努めていく。

(3) 農産物ブランド化について

Q 城里町ブランド創出協議会を立ち上げ、地域活性化を目指すという活動の内容はどういうものか。

A 推奨品の検討やネットミングの統一、加工特産品の開発、販路開拓、販売促進に向けたPR活動を行う。

(4) 直売所の充実について

Q グリーンツーリズムにおける都市農村交流活動の場のひとつである直売所の充実を図るとしているが、具体策はあるのか。

A 果物、野菜、山菜などが好評である。接客マナーを改善し、リピーターを増やしていきたい。

Q 常北地区に直売所の設置は考えているか。

A 常北地区の物産センターを再考したい。

(5) 学区再々編について

Q 300から500戸の集落で、小学校区をつくる目的で明治の合併がなされた。昭和の合併は中学校区をつくるため八千人以上の集落を目安とした。このように日本の合併は教育を大切に考えてきた。さて、城里町も学区の再編に取り組んでいるが、再々編まで考えているのか。

A 平成23年度から再編した小学校で授業を始める。生徒数の動向により、中学校を含めた再々編もある。

# 納税の方法について



三村 由利子 議員

**Q** 納税の方法で、新たにコンビニ支払についての町長の考えは。

**A** 口座振替・納税組合を活用した納付と自主納

付の三つの方法で納付してもらっているが、コンビニ納付も良い方法だと思う。

**Q** 納税者の便宜を図って、少しでも早く手続きされることを強く希望するが。

**A** 今年中は無理で23年度から実現の方向でいく。

# バス通学の助成について

**Q** 小学生の遠距離バス通学の実態はどうか。

**A** 町内でバス通学しているのは石塚小学校である。那珂西方面から15名・春園から12名、利用している8割は1年生と2年生である。

バスに乗る児童がいて、一方で有料のバスに乗る児童がいることは平等性を欠く。

**Q** このことは、行政の公平性を欠くことで、即検討すべき課題だと思いが。

**A** 執行部として考えていかなければならないことだと思う。

**Q** 民間路線バスを利用し通学している運賃の助成は実施しているのか。

**A** 民間バスを利用して通学する児童は、個人負担をお願いしている。

**Q** 小学校再編により導入されるスクールバスの無料化と存続校で遠距離バス通学の運賃負担の格差をどう考えるのか。

**A** 一方で無料のスクー

**Q** 再編の実施計画書にも公平な教育行政を行う為に、存続校のバス通学児童は、検討の必要性ありと、問題提起しており、23年度スクールバス運行までにこの問題解決しておくべきと考えるが。

**A** 遠距離歩くことは大

変だし、交通事故等を考え、安全に通学できる方法をこれからの中で考えていく。





桐原 健一 議員

# 女性特有のがん検診事業について

しており、有意義な事業である。

**Q** 昨年夏以降、無料クーポンによる乳がん、子宮頸がん検診事業を行って

**Q** がん検診無料クーポン事業を継続できるか。  
**A** 早期発見、早期治療によりがん死亡者の減少を図るため、引き続き実施していく。

**Q** 子宮頸がんは、予防ワクチン接種と検診でほぼ100%防ぐことができるといわれている。公費負担での予防ワクチン接種事業はできないか。  
**A** 子宮頸がんの予防ワクチン接種は、11歳から14歳の女子に接種すると最も効果的であるというようなことで、3回の接種費用として、5・6万円かかるようである。町としても、よく見極め研究していく。



## 住民基本台帳カードについて

**Q** 65歳以上で運転免許証を自主返納した住民に、公的な本人確認書類として利用できる顔写真付き住民基本台帳カードを無料交付する、高齢者運転免許証自主返納支援事業はできないか。  
**A** 県内でも幾つかの市町村において実施されている。今後、笠間警察署などの関係機関と協議しながら、前向きに検討していく。

## 高齢者への肺炎球菌ワクチンの公費助成について

**Q** ワクチン接種は保険適用がなく、費用が7・8千円程度かかる為、公費助成できないか。  
**A** 平成21年度に肺炎球菌ワクチン接種への公費助成を行っていた県内の市町村は、高萩市と東海村のみである。今後、医療機関等のご意見を伺い、感染の状況等を十分に調査していく。